



WEEKLY REPORT



会長 築瀬 敦

= 築瀬 敦会長スローガン =

“ロータリーのマジックを信じ 地域にマジックを掛けよう”

■例会日:毎週水曜日 12:30~ ■例会場:ホテルシーズン日南

■事務局:日南市岩崎3丁目4番地1-2号 Itten堀川ビル2F 創客創人センター内
TEL:0987-22-3363 FAX:0987-22-3515

第3404例会	No. 23	2025.1.15	月
点鐘・ロータリーソング	18時30分	「われら日本のロータリアン歌」	
ロータリーの目的		西島元利君	
例会行事		クラブ協議会（前期活動報告）	

会長時間



今から 30 年前の 1 月 17 日、阪神淡路大震災が発生しました。30 年経過し、風化してしまわないようにしなければなりません。そこで、娘さんをなくされた、主婦の小西真紀子さんという方が、震災 10 年後に書かれた手記を紹介したいと思います。あの地震で私はかけがえのない五歳の長女希(のぞみ)を亡くしました。当初は彼女の死を受け止められず、胸がしめつけられ、助けてやれなかつた自分を責め続けました。生きている事が本当につらい日々でした。そんな時「震災で子供を亡くした親の集い」の存在を知り、すがるような思いで足を運びました。月に一度、子供を亡くした親たちが集まり、つらい気持ちや、亡くなった子供たちの事を話します。人目をはばからず泣ける場所でした。そんなとき「えらいね、私ならとても生きていけないわ」と人に言われました。「私は生きていいのだろうか。なぜ生きているのだろう」と考えさせられました。言った人も「頑張ったね」という意味で言ってくださった事はわかっているのに、素直に聞く心の余裕もありませんでした。希が生きていたらとすると、幼稚園を卒園する頃、小学校の入学式を迎える頃、母の日、父の日、誕生日、と節目、節目が本当につらく、そんな時は家の中でじっと一日が過ぎるのを待ちました。そんな事が何年も続きました。主人は神戸に、私は下の娘と実家でという生活が地震の年の夏まで続きました。私が両親やまわりの人の温かさにつつまれて生活していた頃、主人は神戸の地で悲しみとつらさの中で生活していました。今でもその溝をうめることができません。秋に仮設住宅で二人の生活ができるようになりました、年末には復興住宅へ移りました。そして地震から四年後の春、希と暮らした町に帰ってきました。そこには「のんちゃんのママ」と呼んでくれる人がいました。大きくなかった希の友達がいました。そしてその中に希が生きていました。五歳になったドの娘の手をひいて、希と歩いた道を歩きました。ゆがんだ道も、落ちた高架も「夢だったのだろうか」と思うほどきれいに直っていました。二階建が並んでいた町は三階建てが建ち並び、はじめは圧迫感さえ感じました。春にはきれいな花をつけていた大きな桜の木はなくなっていました。今では、その町並みにもすっかり慣れ、二年生になった下の娘は、希が通うはずだった小学校に毎日元気よく通っています。姉思いの娘は何かあると必ず仏壇に手を合わせて希と話しています。1月17日にともされるローツクの灯りを「命の温かさ」と感じる娘に育ちました。どこにいくのも「お姉ちゃんと一緒。私達は四人家族だから」と言います。彼女の成長の中に必ず希がいます。私には何よりうれしい事です。小さい頃から、あなたの笑顔に支え続けてもらいました。本当にありがとうございます。この十年いろいろな人の出会いがありました。同じように家族を亡くされた大勢の方々、希の絵を描いてくださった画家の方、取材を通して知り合った記者の方、震災後暮らした所で知り合った人達。希が会わせてくれた人たちです。「おかあさん頑張れ」と言ってくれているかもしれません。二人の娘に支えられ、出会いを大切に、これからも「家族四人」でがんばっていこうと思っています。今神戸は十年目

に向かって、いろいろな活動をしようとしています。けれど、どれだけの人がそのことを知り、参加しようとしているのでしょうか。娘の通う学校もほとんどが地震の後に生まれた子供達になりました。区画整理が進み、大きなマンションが建ち並び、町には新しい住人がふえ、地震は遠いものになってきています。私達家族は今「一・一七希望の灯り」というNPOの活動に参加しています。参加されている方は、身内を亡くされた方が多いのですが、他府県から参加される方も少なくありません。他府県の学校で地震の事を勉強して、1月17日に全員で折った千羽鶴を届けてくださる先生や生徒さんもいます。本当にうれしく思います。亡くなつた娘たちの事を忘れないでほしい。特に地震を知らない子供達には、大きな地震があつた事、その地震で多くの人が亡くなつた事、その一人ひとりに家族があり、それぞれがつらい悲しい思いをした事、地震で大変だったけど、大勢の人の思いやりややさしさにあふれていた事を知ってほしい。地震を風化させないでほしい。十年で終わりではありません。十年目を前にして改めてそう思います。そのためにできる事を、少しづつ頑張っていきます。これが小西さんの手記でした。月曜日に大きな地震がこの地方でも発生しました。この地域での警戒すべき大規模地震といえば南海トラフ地震です。発生した場合、広範囲にわたる強い揺れや津波が予想され、甚大な被害が懸念されています。そのため、事前の備えが非常に重要です。事前の備えといえば、まずは、ハザードマップの確認です。地域のハザードマップを確認し、地震や津波のリスクエリアを把握し、津波避難場所や避難経路を事前に確認します。そして、緊急持ち出し品の準備も必要になります。最低3日分の食料・水、水は1人1日3リットルが目安となります。その他、懐中電灯、携帯ラジオ、予備の電池。医薬品、常備薬、救急セット。防寒具、衣類、簡易トイレ。スマートフォン用のモバイルバッテリーなどが持出し品として挙げられます。家の中では、家具の固定を転倒防止器具を使って行い、家具や家電が倒れないよう固定します。寝室の近くには大型家具を置かないように工夫します。家庭での防災計画をきちんと立て、家族全員で避難場所と連絡方法を話し合っておきます。家族が離れ離れになった場合の集合場所や連絡手段（LINEや災害伝言ダイヤルなど）を決めておきます。自治体や近隣住民と連携して、地域の防災訓練に積極的に参加し、高齢者や要支援者がいる場合、助け合いの体制を作る。海岸近くでは、地震後すぐに津波が到達する可能性がありますので揺れを感じたらすぐ高台や安全な場所へ避難し、津波警報が解除されるまで海岸や河川には近づかないようにします。気象庁や自治体の公式アプリをダウンロードして、リアルタイムで情報を受け取る準備をしておくといいかもしれません。調べていてなるほどと思ったのが、金融と書類の準備です。現金（小銭含む）を非常用に準備し、重要書類（保険証、身分証明書、通帳など）のコピーを防水ケースに入れて保管しておくということ。今日の、会長時間でこのテーマを取り上げなければ気づきませんでした。「地震が起きたらどうするか」を日常的に意識して生活することが重要です。備えのポイント南海トラフ地震の発生時には時間との戦いになります。日頃の準備と知識が命を守る鍵です。地域社会と連携しながら、自分と大切な人の命を守る備えをしておきましょう。

幹事報告

- 1 公益財団法人ロータリー米山記念奨学会より、" ハイライトよねやま №298 号 "が届いております。
2. ロータリー希望の風奨学金より、" 風の便り " (通刊 123 号)が届いておりますので、回覧致します。

スマイル

石灘 寛樹君 還暦になりました。 今後もよろしくお願ひします。
小玉 淳君 NHKの番組に取り上げられたそうです。家がなくなってしまいました。
土屋 昭次君 新年会の書初めて、優秀賞を戴きました。何事にも挑む（桃ではありません）事が大切です。
田島 逸男君 今日の例会はクラブ協議会であるとは把握しましたが、峰松ガバナー補佐公式訪問例会で
ネクタイ着用を失念しました。 スマイルして、お詫びします。

出席率報告

クラブ協議会（委員会活動報告）

クラブ管理運営委員会

＜R 情報委員会＞ 委員長 田島逸男 副委員長 野崎正彦 委員 土屋昭次

○前期活動実績

1. 前年度作成した日南ロータリークラブの用語集（通称赤本）を基に会員への周知を図る。
2. 空き時間が発生したら情報委員会を指名して貰いロータリー用語集の解説をする。
⇒空き時間としての指名がなく用語集の解説ができなかつた
3. 情報集会を複数回開催→第一回情報集会を 2024 年 11 月 18 日に開催した。
4. その他
①会長及び理事会からの諮問事項に対応する。⇒諮問事項の実績無し
②「奨学会わかば」委員会や財団と連携して周知を図る
⇒2024 年 10 月 9 日開催の「わかば奨学金授与式」で周知した。

○前期の反省

1. My Rotary 登録の 100%に向けて周知協力を仰ぐ
2. 空き時間が出れば SAA にお願いしてロータリークラブの用語を情報委員会委員が実施する
3. 少なくとも年度中に第 2 回の「情報集会」を開催する。

○予算執行

11/18 情報集会新入会員会費分 5,000 円×4 名=20,000 円

飲食代支払い不足分 1,960 円

※本期予算未消化額 60,000 円 - 21,960 円 = 38,040 円

奉仕プロジェクト委員会

＜職業奉仕委員会＞ 委員長 斎藤奈々 副委員長 村社浩二 委員 入中英雄、齊藤篤史

○前期活動実績

例会において 4 つのテストの唱和の実施

○前期の反省

職業奉仕月間に職場訪問を実施することができなかつた。

委員会メンバーと、職場訪問について具体的な話し合いを持つことができなかつたことを反省している。感染症対策などを考えながら、実施できるようにしたい。

○予算執行

0 円

奉仕プロジェクト委員会

＜社会奉仕委員会＞ 委員長 井野畠善順 副委員長 古澤昌子 委員 小玉淳

○前期活動実績

環境美化活動（道路清掃）を 8 月 6 日に行い、過去最多と思われる 19 名の参加をいただいた。

○前期の反省

委員会を特には開催しなかつたので、できることなら委員会メンバーと話しながら計画できるとよかつた。

○予算執行

0 円

奉仕プロジェクト委員会

＜青少年奉仕委員会＞

委員長 花盛和也 副委員長 竹井崇利 委員 峰松俊夫

○前期活動実績

少年野球大会の開催 開催日：令和6年1月23、24日 ボールとメダルを協賛した。

○前期の反省

例年通りに大会を開催し、青少年の体力向上、育成に寄与した。

今後の課題として、少子化に伴う少年野球愛好者の減少が危惧される。

○予算執行

ボールとメダルを授与 68,200円

クラブ活動運営委員会

＜親睦委員会＞

委員長 入中英雄 副委員長 榎木田大資 委員 西島元利

○前期活動実績

*結婚・誕生日の会員にお祝いの品を贈呈し卓話をしていただいた。

*サマー親睦会(8月28日)は台風接近のため中止とさせて頂きました。

*家族アワー・忘年会(12月11日)にオークションを開催し売り上げ合計¥58,800をスマイルとさせて頂きました。

○前期の反省

*結婚・誕生日卓話については、該当者が多い月と少ない月でバラつきがあるので平均的にできないものかを今後の課題したいと思います。

*サマー親睦会は中止、家族アワー・忘年会は私は不参加でしたが、残りの観桜会を盛り上げる企画を考えたいと思います。

○予算執行

サマー親睦会	予算 120,000円	支出 0円
家族アワー・忘年会	予算 120,000円	支出 93,311円
	総予算 620,000円	総支出 93,311円 残金 526,689円

広報委員会

＜雑誌会報広報委員会＞

委員長 菊池希樹 副委員長 河野通郎 委員 斎藤奈々

○前期活動実績

- ・「ロータリーの友」の購読の奨励事業として7月号を委員会報告時、8月号、9月号を広報誌にて購読奨励実施
- ・毎例会終了後広報誌発行を実施
- ・日南市古澤広報係長を通じ日南記者クラブへ2024年度日南ロータリークラブ広報体制を周知
- ・日南ロータリークラブ70周年記念時計台寄贈式を記者クラブを通じ広報実施
- ・高校生就職支援セミナーを記者クラブを通じ広報実施

○前期の反省

- ・10月号以降「ロータリーの友」購読奨励が滞ってしまった。
- ・日南地区マスメディアの皆様との顔合わせ懇親会が台風襲来の為中止となつた。この件については年度末に新体制紹介と合わせて再度実施する予定。
- ・少年野球大会等広報漏れの事業があり、クラブ内への広報委員会活動の周知が出来ていなかつた。

○予算執行

マスメディアとの交流会 予算 30,000円 支出 0円 残金 30,000円

事務局〒887-0014 日南市岩崎3-4-2 Itten 堀川ビル2F 創客創人センター内 TEL0987-22-3363・FAX0987-22-3515

会長：築瀬 敦 副会長：斎藤篤史 幹事：石灘寛樹 雑誌会報広報委員長：菊池希樹

雑誌会報広報委員会より

情報、原稿は、admin.pmy06@honda-auto.ne.jpまで送信してください